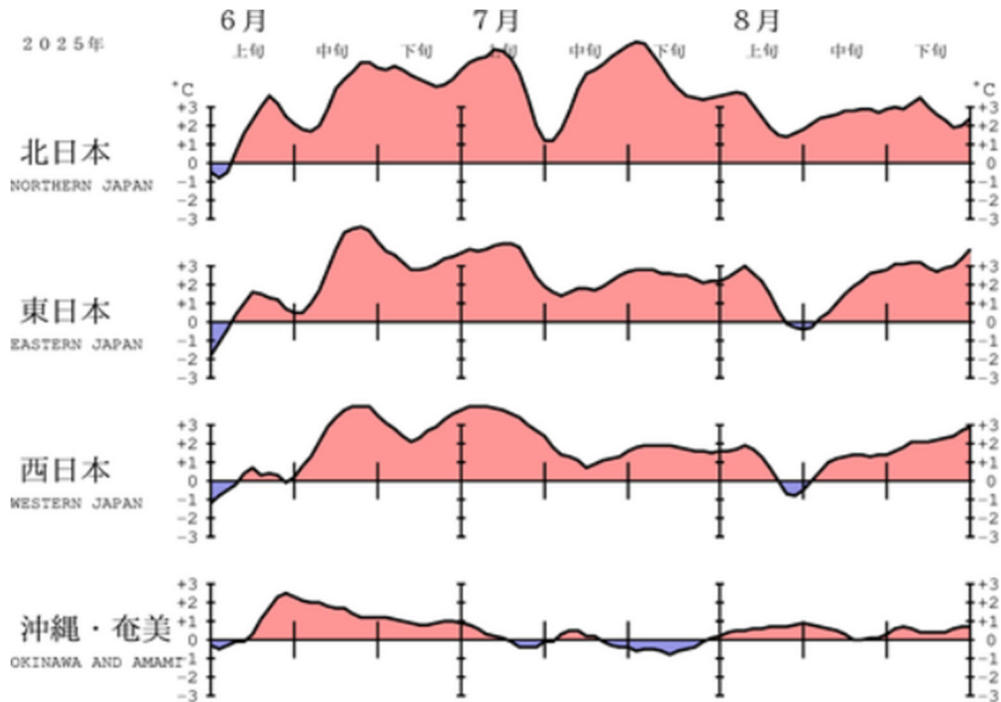


気象庁資料  
 令和7年夏（6～8月）の気温の特徴  
 ※地域平均気温平年差の推移（5日移動平均）

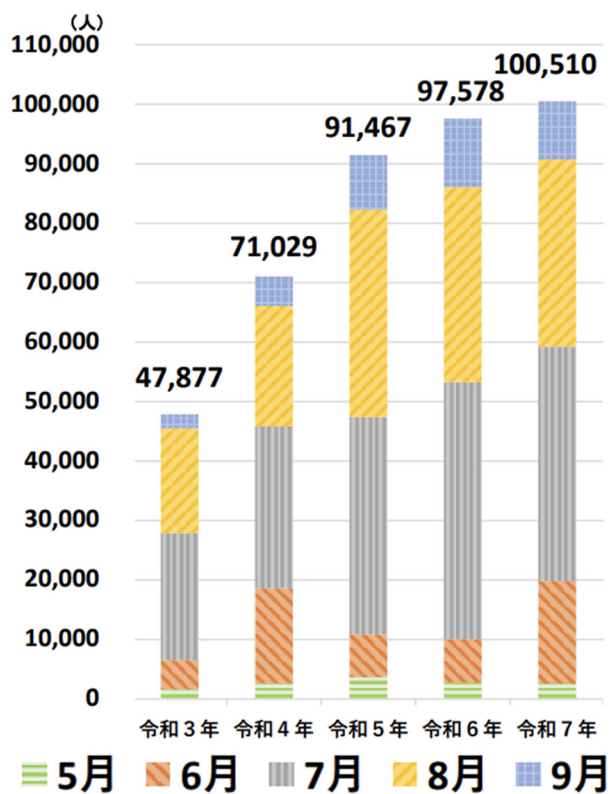


\* 気温は、北・東・西日本でかなり高かった。日本の夏の平均気温は最も高かった

気温は、夏を通じて偏西風が平年より北に偏って流れやすく、暖かい空気に覆われたため、北・東・西日本でかなり高く、1946年の統計開始以降、それぞれ夏として1位の高温となった。また、全国153の気象台等のうち132地点で、夏の平均気温が歴代1位の高温となった。日本の夏の平均気温（\*）の基準値からの偏差は+2.36°Cとなり、統計を開始した1898年以降の夏として1位の高温となった。

（気象庁ウェブサイトより抜粋）

消防庁資料  
熱中症による救急搬送人員の推移



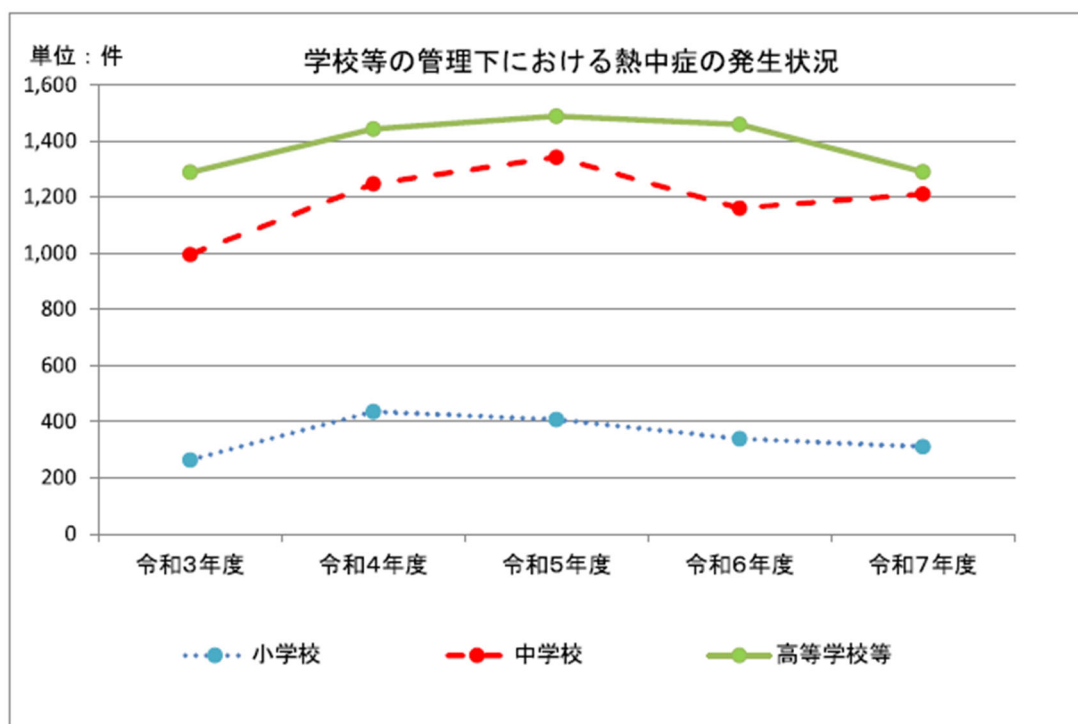
(令和8年3月19日 令和7年度第1回熱中症対策推進会議幹事会資料より  
抜粋)

学校等の管理下における熱中症の発生状況

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
小学校	264	436	408	339	311
中学校	996	1,248	1,343	1,161	1,212
高等学校等	1,289	1,444	1,489	1,460	1,290
計	2,549	3,128	3,240	2,960	2,813

(独立行政法人日本スポーツ振興センター調べ)

※上記は、学校等の管理下における熱中症に対して医療費を支給した件数である(令和7年度は速報値)



気象庁  
令和8年「暖候期予報」夏の天候（6～8月）の見通し

		平均気温 夏（6月～8月）
北日本	日本海側	低10 並40 高50% 高い見込み
	太平洋側	
東日本	日本海側	低10 並30 高60% 高い見込み
	太平洋側	
西日本	日本海側	低10 並30 高60% 高い見込み
	太平洋側	
沖縄・奄美		低10 並40 高50% 高い見込み
<p>数値は予想される出現確率（%）です</p>		<p>平均気温 夏（6～8月）</p> <p>北日本 西日本 東日本 沖縄・奄美</p> <p>低い確率（%） 50 40 40 50 高い確率（%） 以上 平年並も40</p>

（気象庁ウェブサイトより抜粋）